

授業概要

本講義では、実験法と調査法を題材とし、人間の「こころ」の仕組みを明らかにするための方法論について実践的に講義する。ある研究目的に従って方法を決定し、データを収集し、分析し、結果の意味を読み取り、論文にまとめるという作業を行う。講師から解説するだけでなく、受講者自身にも実際に手を動かしてもらいながら、実験や調査の方法を体得してもらうことを目指す。卒業研究などで心理学的なアプローチから研究をしてみたい人や、心理学の研究法に興味のある人の受講を歓迎する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	心理学研究法の概説
第 3 回	演習① 実験法（記憶）：問題と目的・方法の確認
第 4 回	演習① 実験法（記憶）：実験の実施
第 5 回	演習① 実験法（記憶）：データの分析と考察
第 6 回	演習② 実験法（知覚）：問題と目的・方法の確認
第 7 回	演習① 実験法（知覚）の実験：実験の実施
第 8 回	演習① 実験法（知覚）：データの分析と考察
第 9 回	演習③ 面接法：問題と目的・方法の確認
第 10 回	演習④ 調査法：問題と目的・方法の確認
第 11 回	演習④ 調査法：調査の実施
第 12 回	演習④ 調査法：データの分析と考察
第 13 回	演習③ 面接法：調査の実施
第 14 回	演習③ 面接法：データの分析と考察
第 15 回	まとめと振り返り
第 16 回	

※受講生の興味関心や進度に応じて、一部変更する場合があります。

到達目標

- ・研究目的に沿って実験の計画立案ができる。
- ・データを収集し、分析し、結果の意味を読み取ることができる。
- ・わかりやすく整理された実験レポートを書くことができる。

履修上の注意

- ・業中は、講師からの説明だけでなく、受講者同士での話し合いや活動の機会を多く設ける。
- ・他の受講生とも協力しながら、主体的に授業に参加することを求める。
- ・また、コンピュータを用いて分析するため、情報機器の操作に慣れていることが望ましい。

予習・復習

毎週、課題ないしはレポートが課されるため、時間外学習が必須である。目安として、1回（1週）の授業につき3時間以上を充てることになる。

評価方法

授業内レポート 50%、受講態度 50%

テキスト

教科書は特に指定せず、毎回の授業時に適宜教材を配布する。